

# 県西教育事務所だより

「学校に元気を 先生方に自信と勇気とやる気を 子どもたちに夢と生きる力を」 令和7年1月15日発行(第4号)

明けましておめでとうございます。令和7年が幕を開けました。今年一年が、子どもたち、そして教職員の皆様一人一人にとりまして、希望に満ちた素晴らしい年になることをお祈りいたします。

さて、今年EXPO2025大阪・関西万博が4月13日から開催されます。今回のテーマは、「いのち輝く未来社会のデザイン」です。自然界に存在するさまざまな「いのち」の共通性と相違性を認識し、他者への共感を育み、多様な文化や考えを尊重しあって共にこの世界を生きていこうとすることにより、持続可能な未来を構築することが今回の理念です。

これからもこのテーマのように子どもたち一人一人が、かけがえのない「いのち」を大切に、「考える力」を身に付け、予測困難な時代に、未来の創り手となれるよう、共にがんばっていきましょう。

本年も、どうぞよろしくお祈りいたします。

県西教育事務所長 木村 教人

## 学びのイノベーション推進プロジェクトに係る実証研究校公開授業(小学校・社会科)

令和6年10月28日(月)、筑西市立小栗小学校において公開授業(社会科)を開催しました。100名を超える参加があり、高野 朋花教諭(3学年担任)による「火事からくらしを守る」の授業を公開しました。小栗小学校では、「自ら学ぶ力を高め、社会的な見方・考え方を働かせながら課題を追究する児童の育成」を目指し、学びを調整する場の設定と単元で考える学習過程の工夫の視点で、授業づくりを進めてきました。当日は、学習計画を立てる単元導入時の授業において、1人1台端末を効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びが一体化した授業を通して、探究的な学びを展開することができました。公開授業後に行われた研究協議及び国立教育政策研究所教育課程調査官小倉 勝登氏による指導講評を通して、社会科学習指導の改善・充実を図るポイントについて理解を深めることができました。参観された先生方には、「自校化に向けてのアンケート」にご協力いただきましたので、回答の一部を共有いたします。



考えの交流と共同編集作業の同時進行!  
~多角的に考える力の育成~

### 【公開授業参観後、校内にどのように周知したり、どのように自校で取り組んだり(計画)しましたか。】

- 児童に「問い」をもたせ、「問い」を活かした授業展開や指導案の見直し等を集会にて周知した。
- 単元導入時の展開の仕方やICT機器の活用、Yチャート等の思考ツールを確認した。
- 公開授業と同じような流れの授業を公開した。また、相互授業参観を実施した。
- 問いをもたせる授業づくりや思考ツール、ICT機器等を活用した児童・生徒主体の学習を展開していきたい。

## 「いばらき遠隔推進事業 ピンポイント型研究校」の取組から学ぶ -「単元を見通した授業づくり」の大切さ-

今年度、八千代町の中学校(東中学校、八千代第一中学校)に「ピンポイント型(プログラミング)」のいばらき遠隔推進事業にご協力いただいております。本事業の目的は、高度な専門性や優れた指導力をもつ人材を活用した遠隔教育を実施することで、質の高い教育を実現し、児童生徒の学力向上を図ることです。両校とも技術科において、専門人材である大西有教授(茨城大学)より遠隔(オンライン)での指導を受けながら実践してきました。

いずれの実践においても、指導者が「単元を見通した授業づくり」をこれまで以上に意識した指導計画を立案していました。「単元のどの時間に、遠隔での専門的な指導をいただくとより効果的か」を考え、意図的・計画的に遠隔での指導を取り入れながら授業を進めていました。生徒は大西教授からの助言を受けながら、自分が目的とする動きと実際の動きが異なる場合には、デバック(修正)を繰り返していました。よりよいプログラムを完成させようと試行錯誤したり、どのようにデバック(修正)する必要があるのか協働したりしていました。

両校の実践から、「単元を見通した授業づくり」の大切さを再確認することができました。

### 東中学校 技術科(第3学年) 「計測・制御のプログラミングによる問題の解決」

超音波センサを用いて、自動走行できる仕組みを考え、壁にぶつからないように走行するプログラミングの制作について、大西教授に個別に指導をしていただきました。



### 八千代第一中学校 技術科(第2学年) 「双方向性のあるコンテンツによる問題の解決」

双方向性のあるコンテンツをプログラミングし、社会問題となっている情報の送受信の問題をプログラムで解決する方法について話し合うなど、深い学びへつなげていました。



📄 後日、報告書(本事業の実践事例及び成果と課題)が配信される予定です。その際には、併せてご活用ください。

## 生徒指導関係加配校訪問を終えて ～「させる」生徒指導から「支える」生徒指導へ～

生徒指導の徹底及び事故防止については、平素からご尽力ありがとうございます。生徒指導関係加配校訪問では、前期・後期の2回の訪問を通して、生徒指導に係る加配校としての課題を確認し、児童生徒のために何ができるのか具体的な取組について共有することができました。また、生徒指導の視点に立った授業や校内フリースクールの参観から児童生徒が安心して、楽しい学校生活を送っている様子が見られました。ご多用のところご対応いただきありがとうございました。

今年度は、学校教育指導方針において、生徒指導の実践上の視点として「**教科の指導と生徒指導の一体**」が示されました。生徒指導関係加配校訪問では、以下の4つの視点に立った授業づくり・集団づくりを意識することで、「支える」生徒指導について再認識することができました。

### 生徒指導実践上の視点

- 1 自己存在感の感受(自分も大切にされている)
- 2 共感的人間関係の育成(認め合い・励まし合い・支え合う)
- 3 自己決定の場の提供(自ら考え・選択し・決定する)
- 4 安全・安心な風土の醸成(心の居場所)



< 学校教育指導方針 P5 >

生徒指導は、学校教育のあらゆる場面で、すべての児童生徒を対象に、全ての教員が行っていきます。先生方には、これからも児童生徒の声に耳を傾け、励まし、自己指導能力の育成につながる指導を心がけていただければと思います。生徒指導の土台は信頼関係です。今後とも、児童生徒理解に基づく信頼関係の構築をお願いいたします。

## 「中学生・高校生のための教職セミナー」開催 令和6年11月16日(土) 県西生涯学習センター

中学生・高校生に、教職の魅力伝え、教職に就こうという思いを深めてもらうために、「中学生・高校生のための教職セミナー」を開催しました。今年度から高校生まで参加対象者を広げ、4年ぶりに対面で実施することができました。協力者の先生方と中学生・高校生によるグループトークでは、教職のやりがいや教職を目指そうと考えた動機等について質疑応答が行われました。先生方からは、自身の実践や胸が熱くなる瞬間について語る姿が見られました。参加した中学生・高校生からは、「現職の先生からお話を聞いて、教師になりたいという思いが強まりました。」等の前向きな発言があり、お互いに充実した時間となりました。

### 参加した生徒の振り返りより(一部抜粋)

先生方のお話を聞いて、教師になりたいという気持ちがより強くなりました。教師という仕事は常に多様な視点から物事を判断して、生徒に寄り添って、共に成長できる、素敵な仕事だと気付くことができました。また、色々な意見が聞けて私にとって、とても有意義な時間になりました。これから夢を叶えるために、さまざまなことにチャレンジして、自分の可能性を信じて頑張っていきたいです。そして、かっこいい素敵な先生になりたいです。



グループトーク及び閉会行事の様子



### グループトーク協力者の先生方

- ・川窪 晴香 教諭 (駒込小学校)
- ・前田 陸登 教諭 (大宝小学校)
- ・佐次 茜 教諭 (結城南中学校)
- ・秋元 啓吾 教諭 (下館中学校)
- ・渡辺梨紗子 養護教諭 (中川小学校)
- ・若林 歩優 教諭 (下館第一高校)
- ・滝本 大翔 教諭 (三和高校)
- ・永須 己夢 教諭 (結城特別支援学校)

## 優秀教職員の表彰式を開催

令和6年11月26日(火) 県西教育事務所において、「優秀教職員表彰式」を開催し、木村教人所長が、受賞された3名の先生方へ表彰状を手渡しました。優秀教職員の先生方、おめでとうございます。

### 【TOT 表彰】

- 桜川市立樺穂小学校 指導教諭 成田修子先生
- ※県西地区の学校の授業改善と学力向上に大きな成果

### 【優秀教職員表彰】

- 坂東市立岩井第一小学校 養護教諭 関由美子先生
- ※防災士の資格を活かし、校内防災体制づくりに貢献
- 下妻市立下妻中学校 養護教諭 野部貴子先生
- ※関係機関と連携した相談・支援体制づくりに貢献



(左より) 木村所長 成田先生 関先生 野部先生